

## 環境に関する地域貢献

### ▶水辺ビオトープでの水辺環境の復元を 目指した管理アドバイス

愛知教育大学から程近い場所に、企業による水辺ビオトープ「ふれあいパーク」がオープンしました。理科教育講座生物分野では、開設前の2013年度から、刈谷市北部の水辺環境の復元を目指して調査をし、管理アドバイスなどを行ってきました。水域と陸地の移行帯であるエコトーンは、環境の変化に富み、さまざまな生き物の生育地になります。小規模ながら小川を設計し、陸地から水辺へかけたエコトーンを取り入れています。常木研究室が7月から10月にかけて行った植物相調査では、合計129種が見られ、そのうち帰化種は19種(うち要注意外来生物は5種)でした。ビオトープ内にある水田で行った植物相調査では48種の植物がみられました。水田では、農薬を使わずに一年中湿田状態で管理しているため、全国的にみると5県以上で準絶滅危惧種に指定されているウリカワ、ヒメミズワラビがみられました。



### ▶生物の多様性と池もみ 刈谷市との共同環境教育

池もみとは、池の水を抜いて池の中に生息する魚類を捕まえる活動を行うものです。2014年11月、愛知教育大学に隣接する洲原池では「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」の補助を受けて、32年ぶりの池もみを井ヶ谷町内会、愛知教育大学と刈谷市との共同開催という形式で行いました。今回の池もみで捕獲された魚類・は虫類のほとんどが外来種で、カメはほとんどがミシシippアカミミガメで、在来種であるスッポンやニホンイシガメは数匹しか捕獲されませんでした。魚類は外来種として、コイ、ライギョ、ブルーギル等が、他からの移入種としては、ヘラブナが捕獲されました。在来種として、ウナギ、ナマズ、キンブナ、テナガエビ等が捕獲されました。当日は、捕獲されたカメや魚類を水槽等に入れて展示し、その説明を理科教育講座生物分野の学生が担当しました。池もみには、愛知教育大学の学生と多数の市民が参加され、池もみから生物多様性を楽しく学ぶ体験をしました。



## トップメッセージ

国立大学法人 愛知教育大学学長  
後藤 ひとみ



2005年4月1日に施行された「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」(事業者の環境配慮促進法)が国立大学法人に適用されて11年目を迎えました。

この法律は、事業者が環境報告書などを通じ、環境情報の開示を進め、その情報が社会の中で積極的に活用されるよう促すことを目的としており、国や地方公共団体のみならず、独立行政法人など特別の法律によって設立された法人の中からも「特定事業者」を指定し、年1回の環境報告書公表を義務づけて、作成した環境報告書への第三者評価の実施などを行うものです。

本学は一国立大学法人として特定事業者の指定を受け、今回で10冊目の「環境報告書」を発行してきました。「環境報告書」とは、事業者(企業、団体、学校等)が、自らの事業活動によって生じる環境負荷や、環境に対する考え方、取り組み等を社会に対して定期的に公表するものです。

公表によって、地域の皆さんには、本学が行っている環境負荷低減の努力について知っていただくこと、学生や教職員には環境対策のための負担について理解と協力をお願いするとともに環境保全への意識を高めてもらうことを目指しています。

ところで、次代を担う子どもたちには、「環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人」であることが期待されています(学習指導要領総則より)。そのため、小学校の社会科では、節水・節電、自然環境や地域資源の保護・活用、自然災害の防止などについて学習しています。中学校の各教科では、資源・エネルギー、地球環境、放射線、地球温暖化などを持続可能な社会の形成という観点から探究しています。高等学校では、世界の資源・エネルギー、資源の再利用、地球温暖化、放射線及び原子力の利用などの学習が加わり、持続可能な社会を目指した行動などを考える学習をしています。

中学校や高等学校における取り組みは、ESD(Education for Sustainable Development)と呼ばれる「持続可能な開発のための教育」として注目されており、本学は愛知県や名古屋市におけるESD活動を支援する大学の一つになっています。

今後とも、事業体としての環境への配慮や省エネ努力を続ける一方で、環境の保全に貢献し、日本の未来を拓くことができる子どもたちの育成も意識した取り組みに努めていきたいと思えます。関係の皆様におかれましては、ご支援・ご協力の程をお願い申し上げます。

# Environment Report

## 環境報告書 2015



国立大学法人  
愛知教育大学  
Aichi University of Education

### ●通常の生活ごみ●

廊下などに設置  
缶  
ペットボトル  
ビン  
可燃ごみ&紙ごみ  
リサイクル資源ボックス  
不燃ごみ&プラスチック

建物ごとに設置  
乾電池  
蛍光灯  
ガラス  
金属

クラブ・サークル課外活動から出る廃棄物  
学生支援課に聞いてください

大学祭などから出る廃棄物  
実行委員会に聞いてください

分別カードを  
持ち歩こう!



### 国立大学法人 愛知教育大学 Aichi University of Education 環境報告書 2015 ダイジェスト

国立大学法人 愛知教育大学 〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 http://www.aichi-edu.ac.jp  
保健環境センター・財務部施設課 TEL 0566-26-2193(保健環境センター) 0566-26-2152(施設課)  
E-mail:kankyo-h@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

「ユニバーサルデザインフォント」を使用しています  
ユニバーサルデザインフォントとはUD(年齢・性別や障害に関係なく、あらゆる人が商品・サービス・住居・施設を快適に利用できるように配慮されたデザイン)の視点にもとづいてデザインされた書体です。



この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています



1. 全学を挙げての環境重視型大学を実現するための体制整備
2. 教育大学としての特長を生かした環境に関する教育研究の推進
3. 豊かな自然環境を保全活用した環境負荷の少ないキャンパスづくり



## 環境に関する教育・研究

### ▶ 附属学校園での環境教育

附属学校園で展開されている環境教育の事例を紹介します。  
附属名古屋小学校では、3月10日に6年生3クラスを対象として、「これからの地球のために、私たちにできること」と題した実践を行いました。6年生の最後の単元として食物連鎖の授業の後に、生物多様性について考えを深めることを目的として、(1時間目)「食物連鎖について調べよう」、(2時間目) 出前授業、(3時間目)「これからの社会を生き抜くために、できること宣言!」の内容で授業を行いました。

附属岡崎小学校では、4年生の社会科の授業の中で、「桜並木保存と伊賀川河川の護岸工事について考える」という課題で授業を行いました。子どもたちは防災対策と環境保全のバランスを考えながら、社会のあり方について考えることができました。また、5年生の六別活動実践では、「E S D集会和書き損じハガキ集め運動」という課題で、地球の将来を考えることなどの大切さについて取り組みを行うとともに、地球環境で起こっていることを全校に伝えるE S D集会を開きました。



### ▶ エコキャンパスプロジェクト報告

2011年度から4年間、文部科学省特別経費「大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実」のプロジェクトとして「環境研究と環境教育の融合によるエコキャンパスづくり」(エコキャンパスプロジェクト)が本学で実施されました。本プロジェクトは、教育大学としての特性を活かした環境研究、教育を展開し、その融合をはかることを目標として実施されました。プロジェクトのタイトルにある「融合」という方向性は、地球環境問題の解決に向けては分断された個々の専門分野を越えた新しい研究の指針の提案や未来指向型の教育システムの創出に繋がります。

研究では研究タスクフォースを組織し、プロジェクトに参加した各教員がそれぞれのテーマのもとで研究を推進しました。教育や社会貢献の面では、環境教育と環境意識向上事業の展開、環境教育教材の開発、地域の学校教員の環境教育能力向上のための講習と支援、大学と附属学校が連携した環境教育の実施などのテーマで活動が展開されました。さらに、プロジェクトの成果を講義や講演会、成果報告会などで公表し、その普及に努めました。



## 環境コミュニケーション

環境活動に参加し快適なキャンパスライフへ!

### ▶ 環境ミーティングの開催

環境問題及び環境への取組みについて、学生と教職員等とが広く意見交換を行う場が、環境ミーティングです。毎年開催し、大学の環境目標・計画や環境報告書及び学生主体の環境活動について意見交換を行います。2014年度は、学生が行っている学内クリーン活動の報告、環境意識が高い学生や教職員・生協職員が参加し、「(敷地内)全面禁煙」「ゴミ問題」等のテーマに沿って、意見交換を行いました。また、日頃から自主的な環境活動に取り組んでいる講義室の清掃活動(クリーン作戦)、エコキャンパスづくりプロジェクト、種プロジェクトなどの話題を共有して、環境に関する話題で意見交換ができる有意義な時間を過ごすことができました。



## 環境への配慮 環境重視のエコキャンパスへ!

### ▶ 温室効果ガス排出削減目標

第2期中期目標・中期計画の中で、施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置として、「環境報告書に温室効果ガスの削減目標を記載し、その達成に向けて自然エネルギーの活用等全学的な省エネルギーを進める。」とし年度計画にて「温室効果ガスの排出量を対2009年度比5%削減する。」としています。

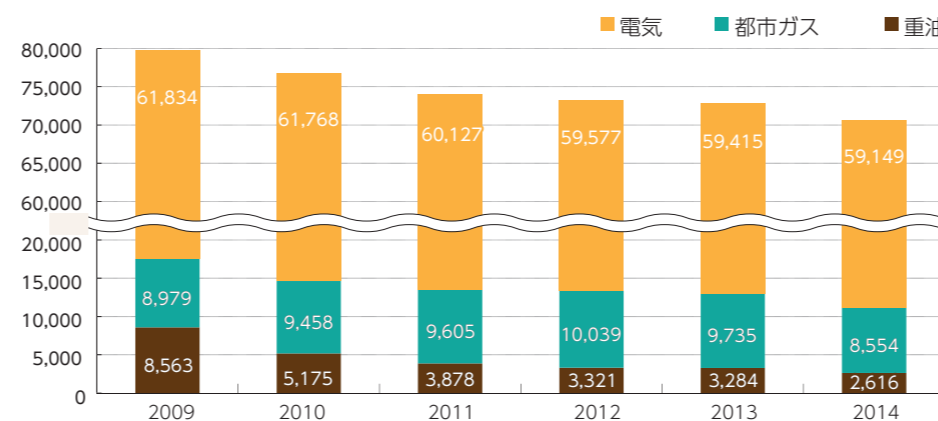
### ▶ 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
温室効果ガス排出量 (kg)	3,850,044	3,654,541	3,493,294	3,709,628	3,667,575	3,526,676
対2009年度比	-	-5.1%	-9.3%	-3.6%	-4.7%	-8.4%

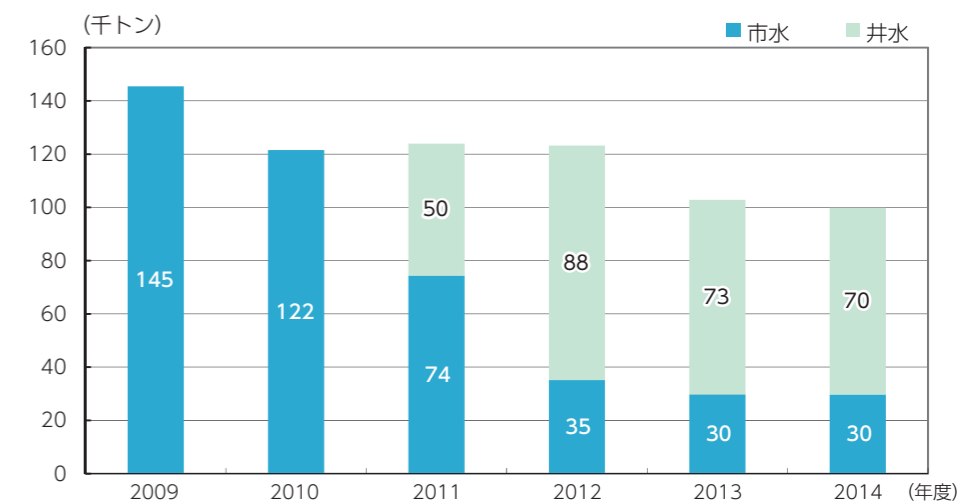
2009年度から比較して2014年度では、-8.4%の減となり目標を達成できました。

### ▶ 総エネルギー投入量(GJ)

本学の過去6カ年の総エネルギー投入量(GJ)を検証すると、2009年度に最も多くのエネルギーを消費し、その後は年々減少し、2014年度は、全構成員が今まで以上の省エネ意識を持ち活動を行った結果、過去最も少ない総エネルギー投入量に抑えることができました。



### ▶ 水資源使用量状況



	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
投入量(市水) (m <sup>3</sup> )	145,452	121,512	74,390	35,116	29,776	29,756
投入量(井水) (m <sup>3</sup> )	-	-	49,541	88,081	73,084	70,081
投入量計 (m <sup>3</sup> )	145,452	121,512	123,931	123,197	102,860	99,837
対前年度差 (m <sup>3</sup> )	-	-23,940	2,419	-734	-20,337	-3,023
対前年度比 (%)	-	-16.5%	2.0%	-0.6%	-13.6%	-2.9%

本学の給水使用量は、便所等の節水対策工事、節水啓発活動及び漏水監視のためメーター設置を細分化させ迅速な対応をした結果、年々減少傾向にありました。2014年度は、プールへの給水量を見直した結果、2012年度と比較して大幅に減少しました。また、2011年8月から導入した「地下水浄化設備」により市水換算で6,196千円の経費削減効果がありました。

### ▶ 花プロジェクト

2014年度の「花プロジェクト」は、「花の植え替え」と「種まき」を中心に行いました。更に本年度から新たにサンフラワーが主催している赤い花で街を彩ろうキャンペーンの「赤い花プロジェクト」に参加しました。プレゼントされた「サフィニアレッド」と購入した「サフィニアホワイト」を合わせ、計300本を大学バス停前に植え、紅白のハートマークを形づくりました。本プロジェクトは始動4年目となり、学生・教職員は慣れた手つきで花の植え替えをしました。



### ▶ 種プロジェクト

愛知教育大学附属図書館では、エコキャンパス事業の一環として、「本の貸出・返却」という役割になぞられて、植物の種の「貸出」を行い、大学内もしくは自宅で栽培・収穫後の種を図書館に「返却」してもらう体験型企画を昨年度からスタートしました。2年目となるこのプロジェクトは、ESD(持続可能な開発のための教育)推進、および知識の宝庫である図書館から環境教育にも情報を発信していくために、図書館内で環境に関する特別コーナーを設置し、教員による講習会も行いました。今年度は、ESD推進、および大学組織全体で環境教育に取り組むために附属幼稚園や小学校でも活動を行い、園児・児童による環境コミュニケーションの広がりにつながっていきました。種の種類は、花がひまわり、アサガオ、マリーゴールド、コスモス、ハーブなど、野菜はトマト、カボチャ、トウモロコシ、なす、ピーマン、スイカ、ゴーヤ、ネギなどです。



### ▶ キャンパスクリーンデイの実施

教職員学生ひとりひとりの学内美化に対する意識の高揚と、本学の教育・研究の場にふさわしいキャンパスづくりのため、また大学見学説明会に美しい環境を提供するための学内一斉清掃「キャンパスクリーンデイ」が7月16日(水)午後に行われました。

学生、教職員が手分けして、大学構内のごみや、側溝の落ち葉を収集、花壇の草抜き、放置自転車の整理、池の清掃などに当たりました。夏の暑さが厳しい屋下がりでしたが、7月26日、27日にはオープンキャンパスを控えていることもあり、来場する高校生たちをきれいなキャンパスにして迎えたいと、参加者は奮闘しました。



## ● 教育研究活動からでる廃棄物 ●

種類ごとに分別して専用集積所に運ぶ



分別カードを  
持ち歩こう!